



卵巣がんに関する 意識調査

2021年9月17日
アストラゼネカ株式会社
コーポレートアフェアーズ統括部

年齢構成のウェイトを掛ける際、総務省統計局 人口推計「各年10月1日現在人口」（2019年（令和元年）10月1日現在）（最新版）の年齢階級別人口を算出根拠としております。

調査概要

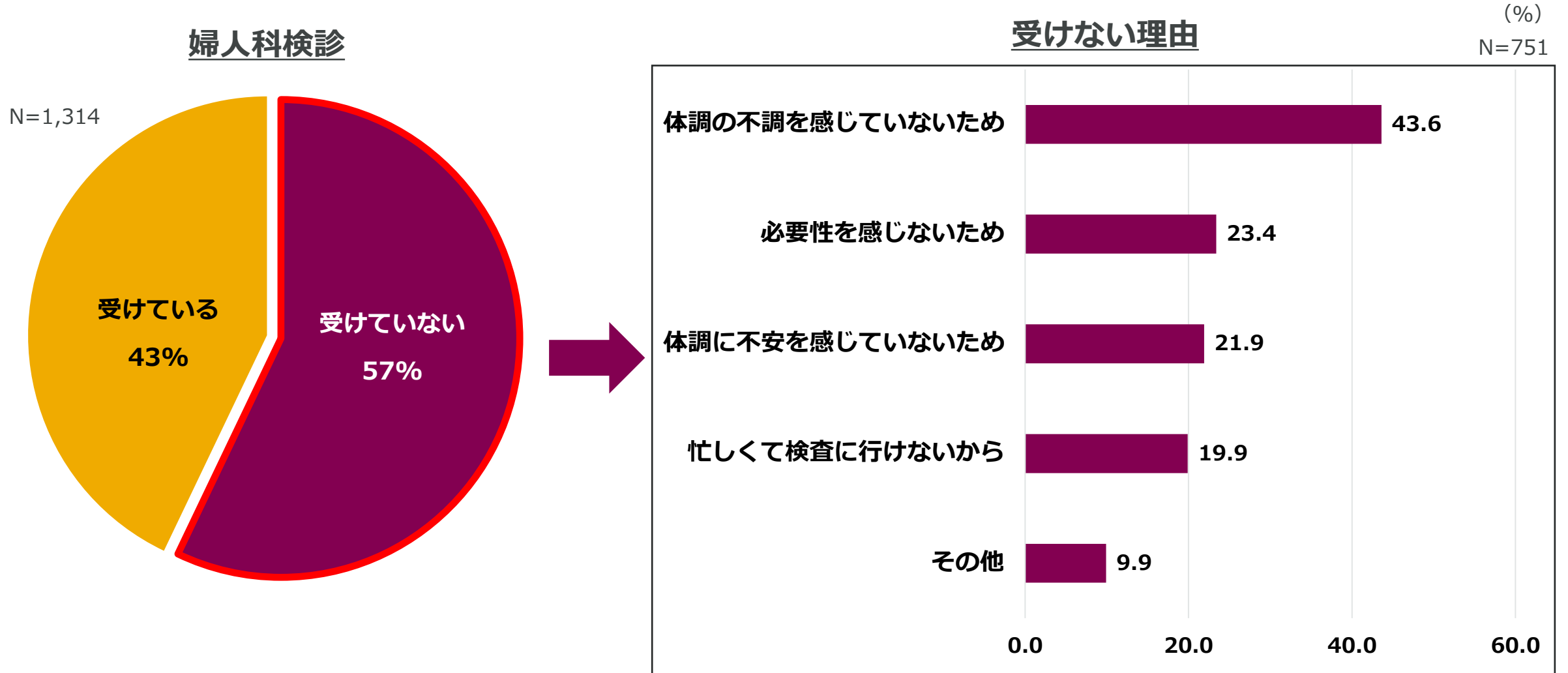
調査目的	一般女性における「卵巣がん」に対する認識および知識レベルの把握、 婦人科検診*の受診状況の把握
調査手法	Webアンケート調査
対象者条件	〈卵巣がんに罹患していない一般女性〉 : 20代～70代
調査地域	全国
サンプルサイズ	〈卵巣がんに罹患していない一般女性〉 : 1,314
実査日程	2021年8月27日～9月1日
パネル	株式会社メディリード

*マンモグラフィ、乳腺エコー、婦人科内診、子宮頸部細胞診、経膈エコー検査、子宮体部細胞診など

調査結果のサマリー

- 約6割の女性が婦人科検診を受けておらず、受けない理由として、最も多かったのが「不調を感じていない」（43.6%）、次いで「必要性を感じていない」（23.4%）であった。
- 一般的にがんなどリスクが高くなるといわれる40代以降においても婦人科検診を受けていない女性は68%と多く、年齢による大きな差はなかった。
- 婦人科検診を受けている女性の6割以上がマンモグラフィーと子宮頸部細胞診を受けていたが、検診を受けている一部の女性は、どのがんの検査かを理解していなかった。
- 不調を感じた際には内科を受診する人が多く、卵巣がんが進行した際の自覚症状である「おなかの張り」や「腹痛」があっても婦人科を受診する人は少なかった。
- 卵巣がんに対する知識は乳がんや子宮頸がんと比較して低く、「発症しやすい年齢」「リスク要因」「自覚症状」のいずれの項目においても「分からない」と回答した人が多かった。
- 卵巣がんの自覚症状として「おなかが張る」「トイレが近い」といった症状が出ることを知っている人は少なかった。

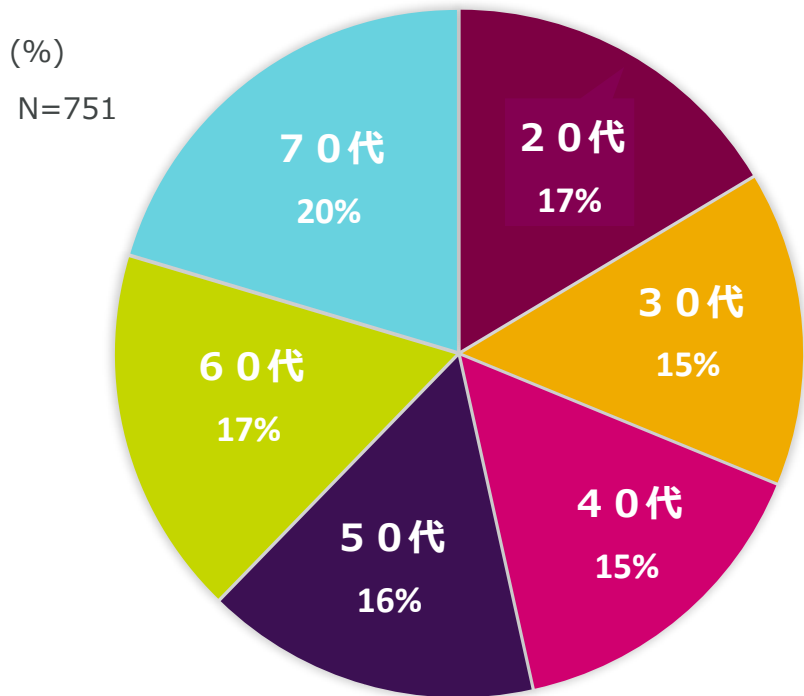
約6割の女性が婦人科検診を受けていなかった



約6割の女性が婦人科検診を受けていなかった（年齢別）

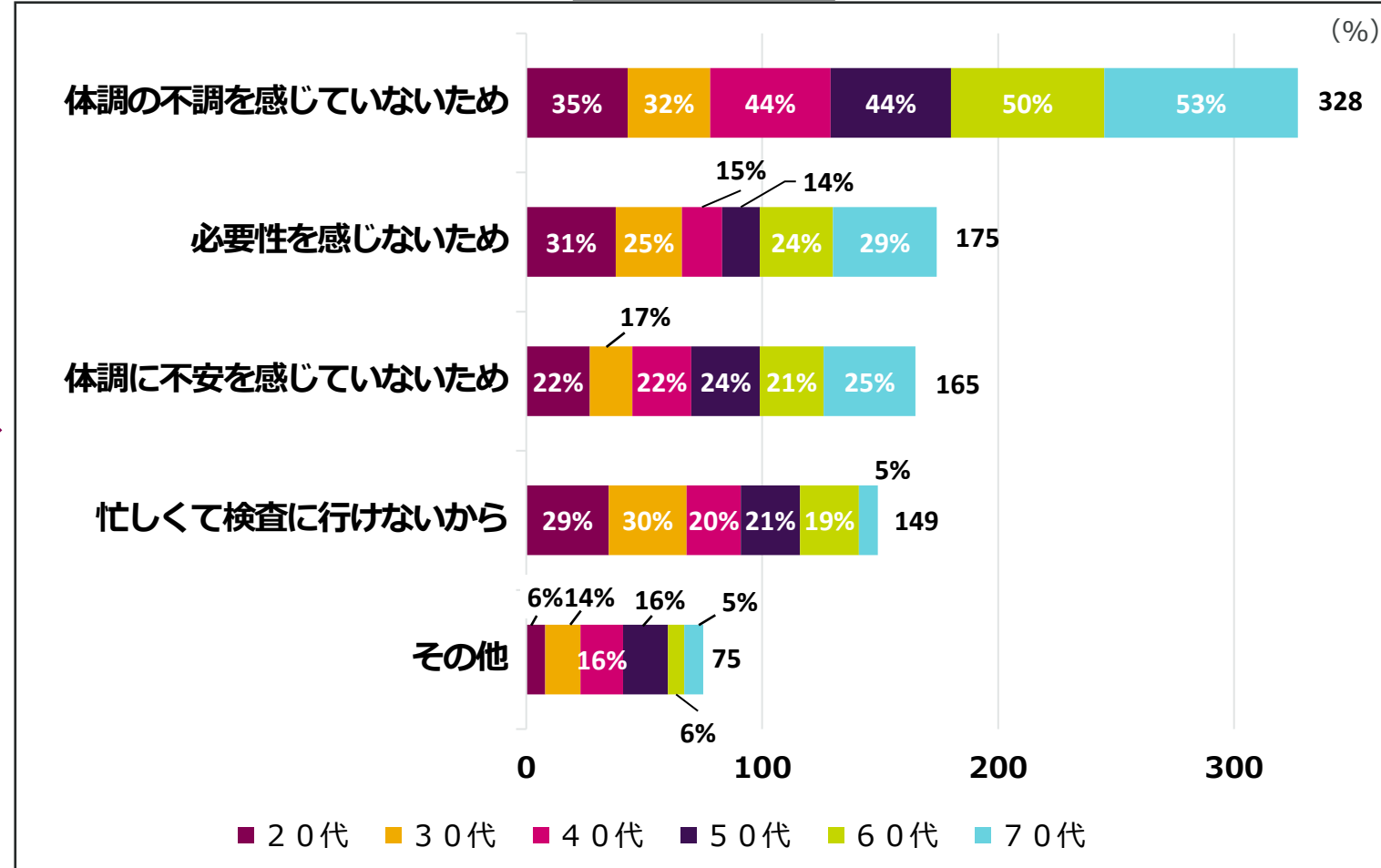
・40代以降であっても婦人科検診を受けていない女性が多く、年齢による大きな差はなかった

検診を受けていない人（年代別）



受けない理由

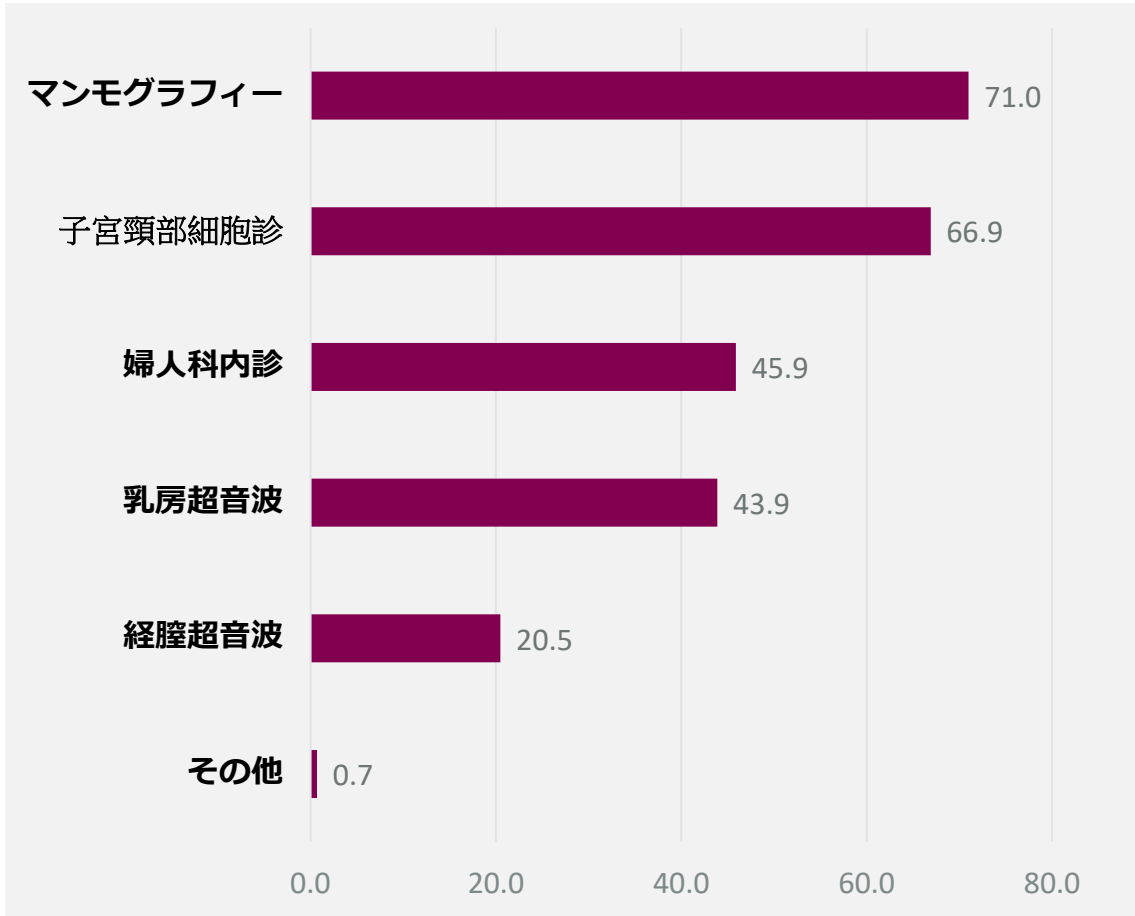
N=751



婦人科検診を受けていても、どのがんのための検査かを理解していない人がいた

Q. 受けている検査として当てはまるものをすべて教えてください。（複数回答）

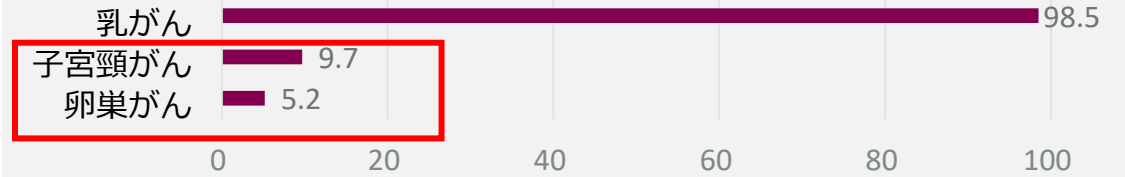
N=563
(%)



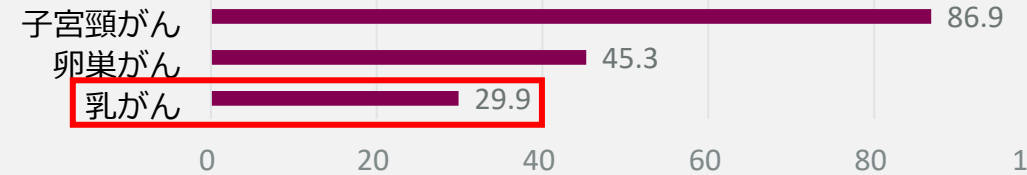
Q. あなたが受けている検査ではどのがんが判明できると思いますか。当てはまると思うものをすべて教えてください。（複数回答）

マンモグラフィー N=400

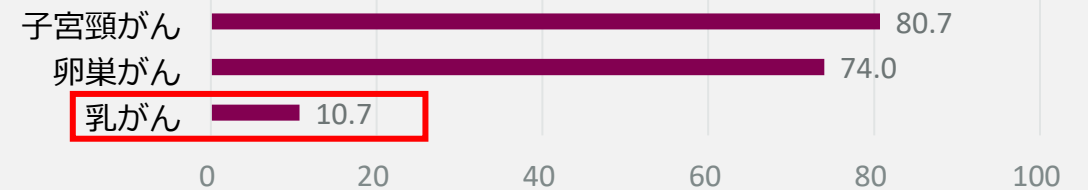
(%)



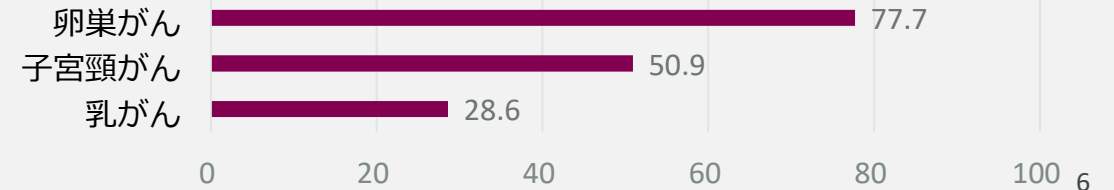
婦人科内診 N=258



経膈超音波 N=116



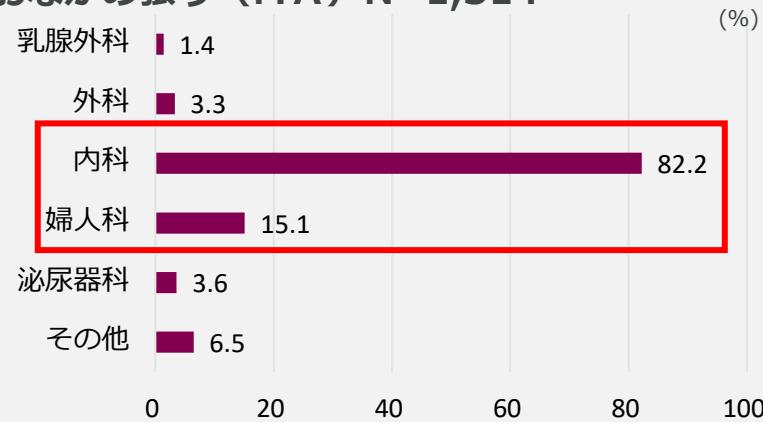
その他 N=4



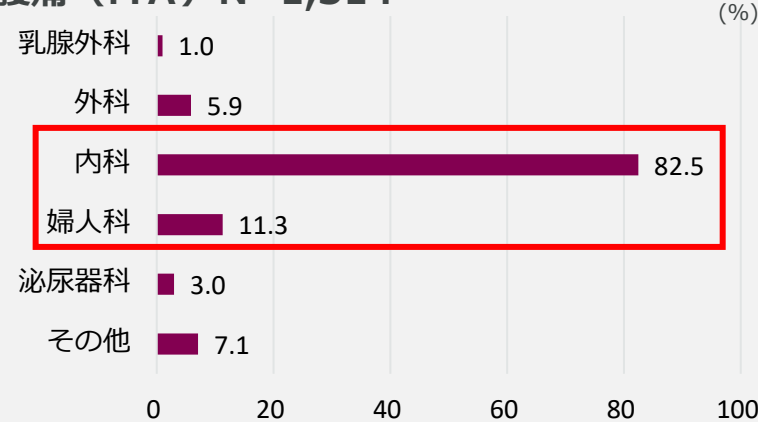
不調を感じた際に受診する診療科は内科が多かった

- ・ 不調を感じた際に内科を受診する人が多く、卵巣がんの自覚症状となる「おなかの張り」や「腹痛」といった不調であっても、婦人科を受診する人は少なかった
- ・ 「乳房のしこり」を見つけた際、41.4%が婦人科を受診すると回答。乳がんを婦人科がんと誤解している人が多かった

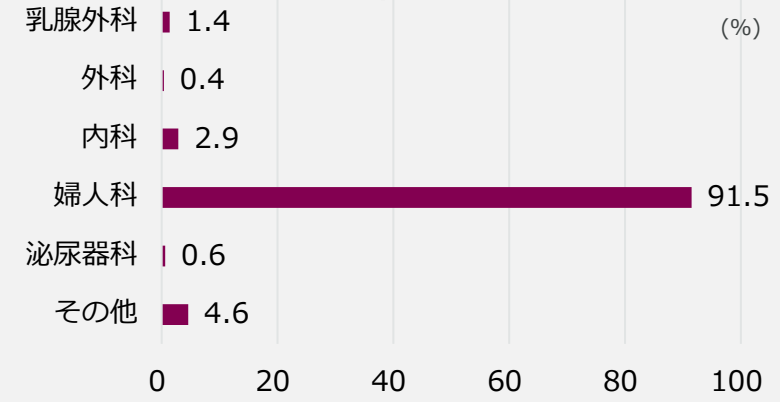
おなかの張り (MA) N=1,314



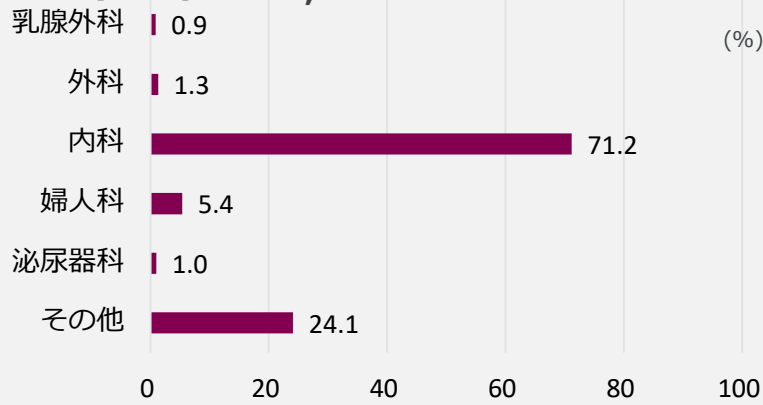
腹痛 (MA) N=1,314



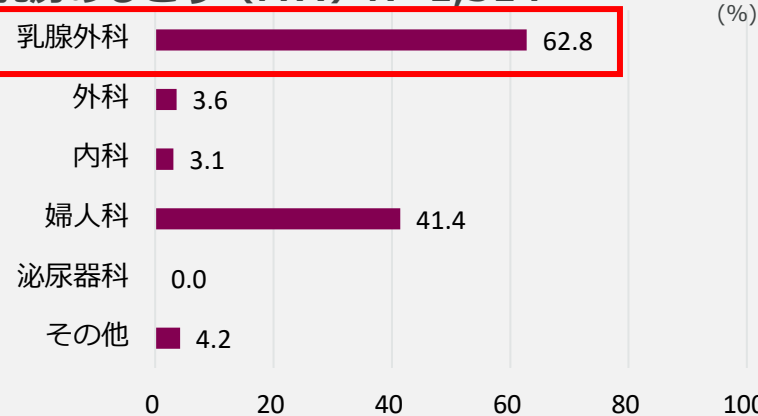
生理不順 (MA) N=1,314



肥満 (MA) N=1,314



乳房のしこり (MA) N=1,314



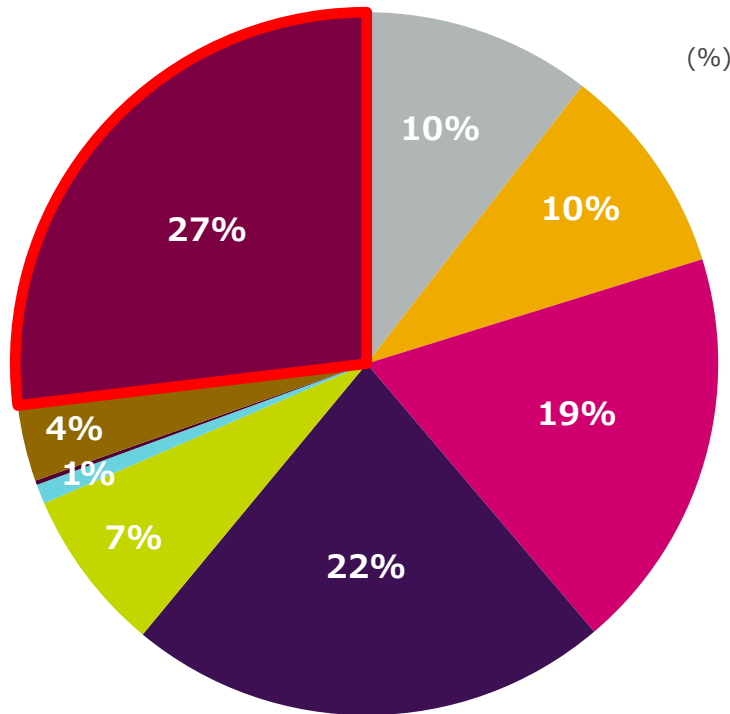
卵巣がんに対する一般の知識は 乳がん・子宮頸がんと比較して低かった（発症年齢）

・卵巣がんは、発症しやすい時期を「わからない」と回答した人の割合が、乳がん／子宮頸がんと比較して多かった

Q. これらのがんを発症しやすい時期はいつ頃だと思われますか。

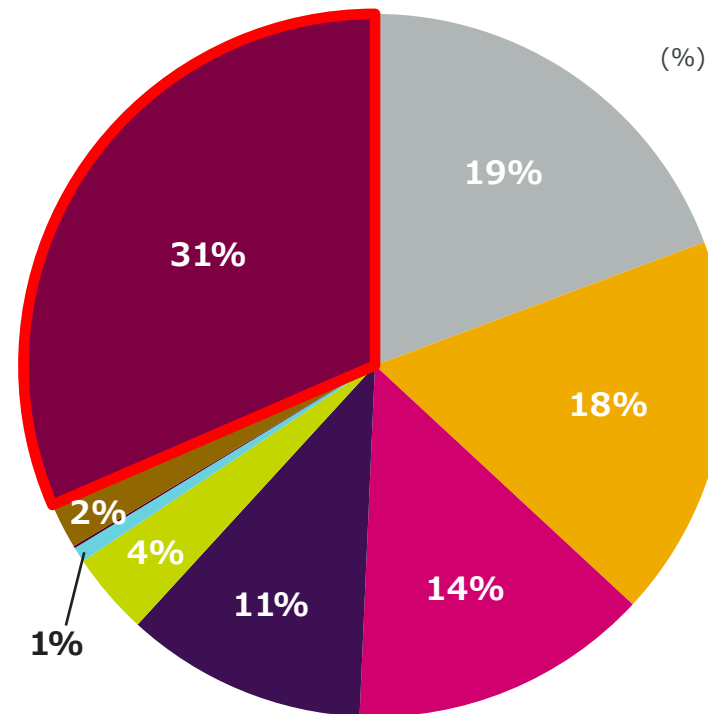
N=1,314

乳がん



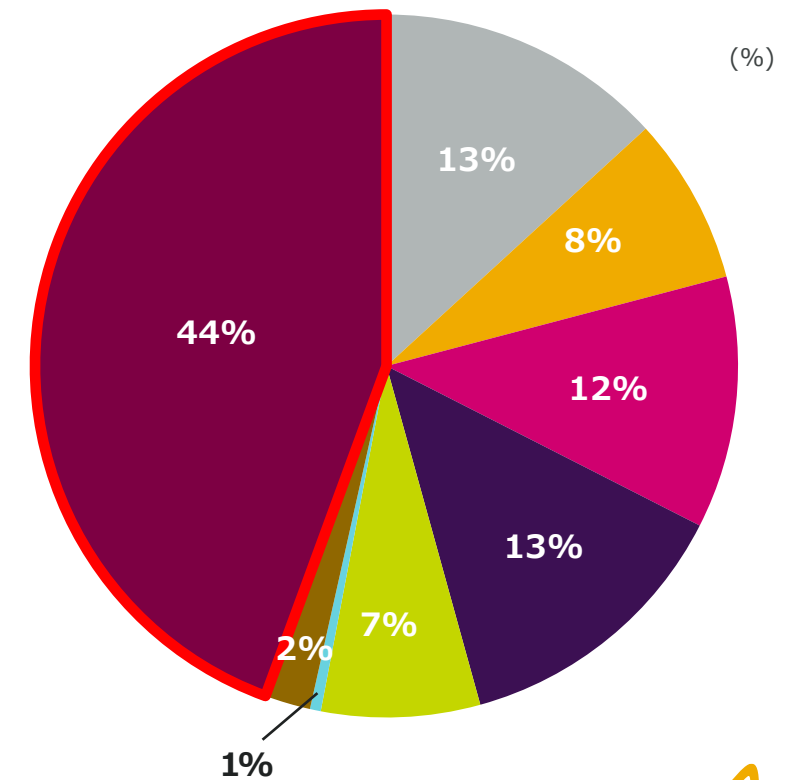
N=1,314

子宮頸がん



N=1,314

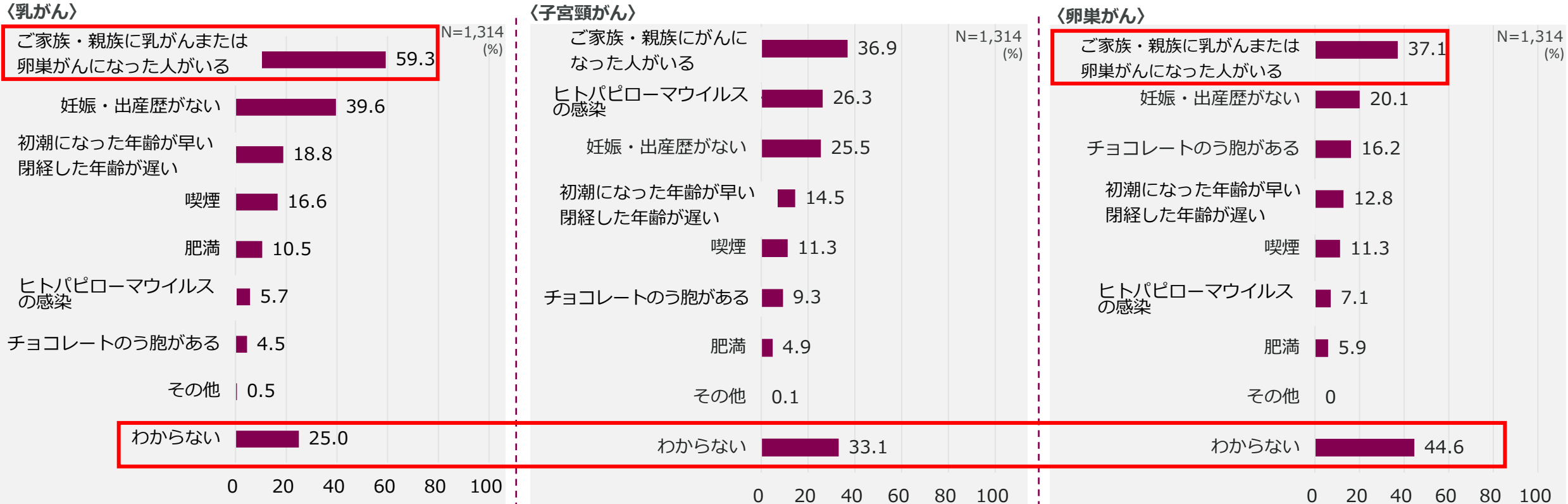
卵巣がん



卵巣がんに対する一般の知識は 乳がん・子宮頸がんと比較して低かった（リスク要因）

- ・ 卵巣がんに関与した家族・親族がいることが発症リスクになると理解している人は、乳がんと比較して20%以上低かった
- ・ 卵巣がんは、発症リスクを高める要因を「わからない」と回答した人の割合が、乳がん／子宮頸がんと比較して高かった

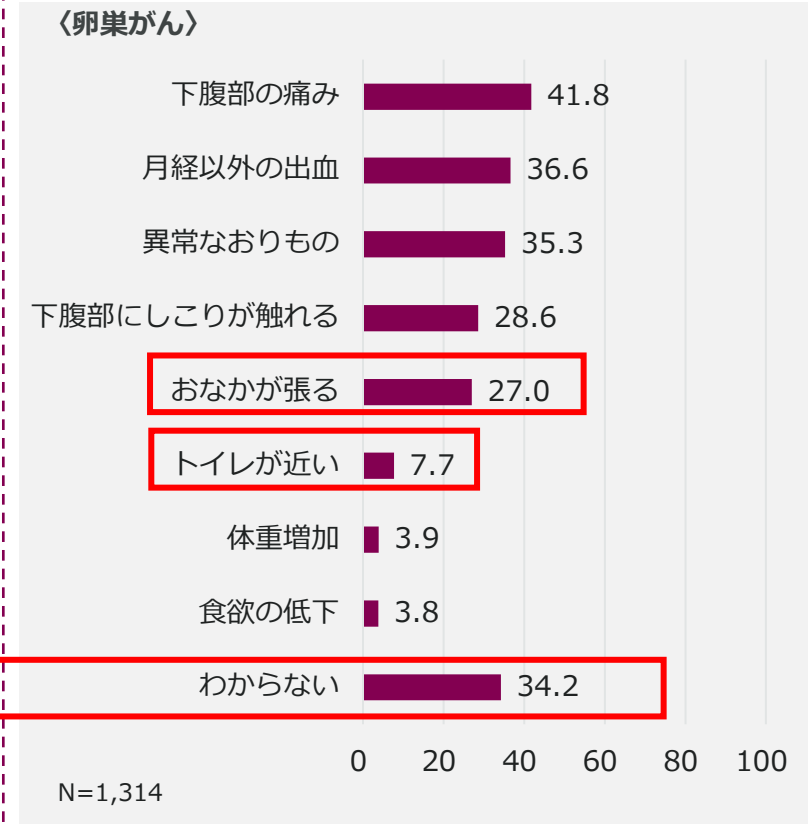
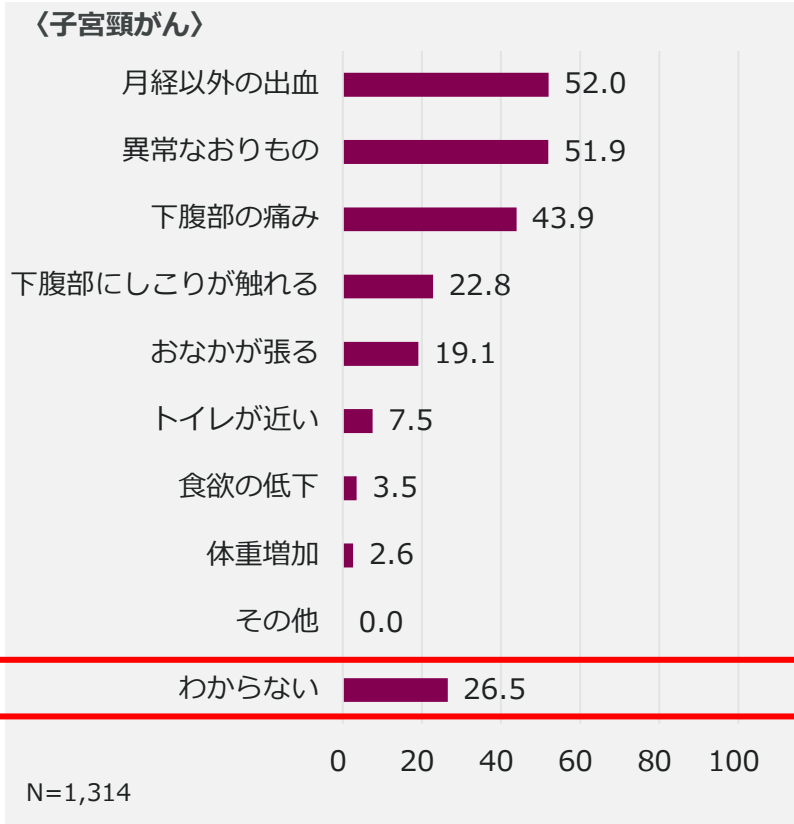
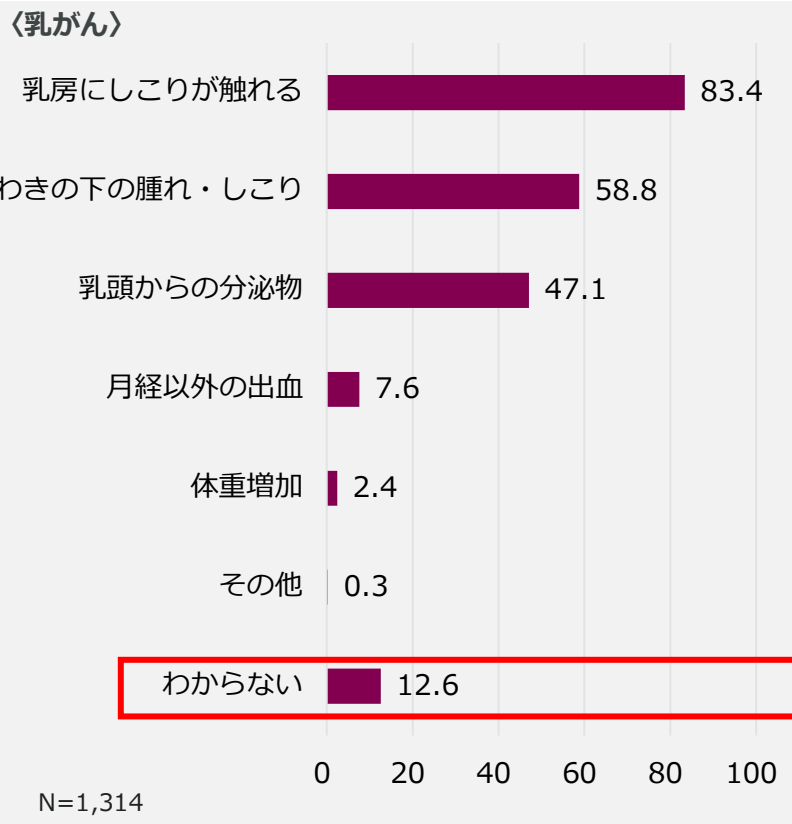
Q. これらのがんの発症リスクを特に高めるものとして当てはまると思うものをお教えてください。（複数回答可）



卵巣がんに対する一般の知識は 乳がん・子宮頸がんと比較して低かった（自覚症状）

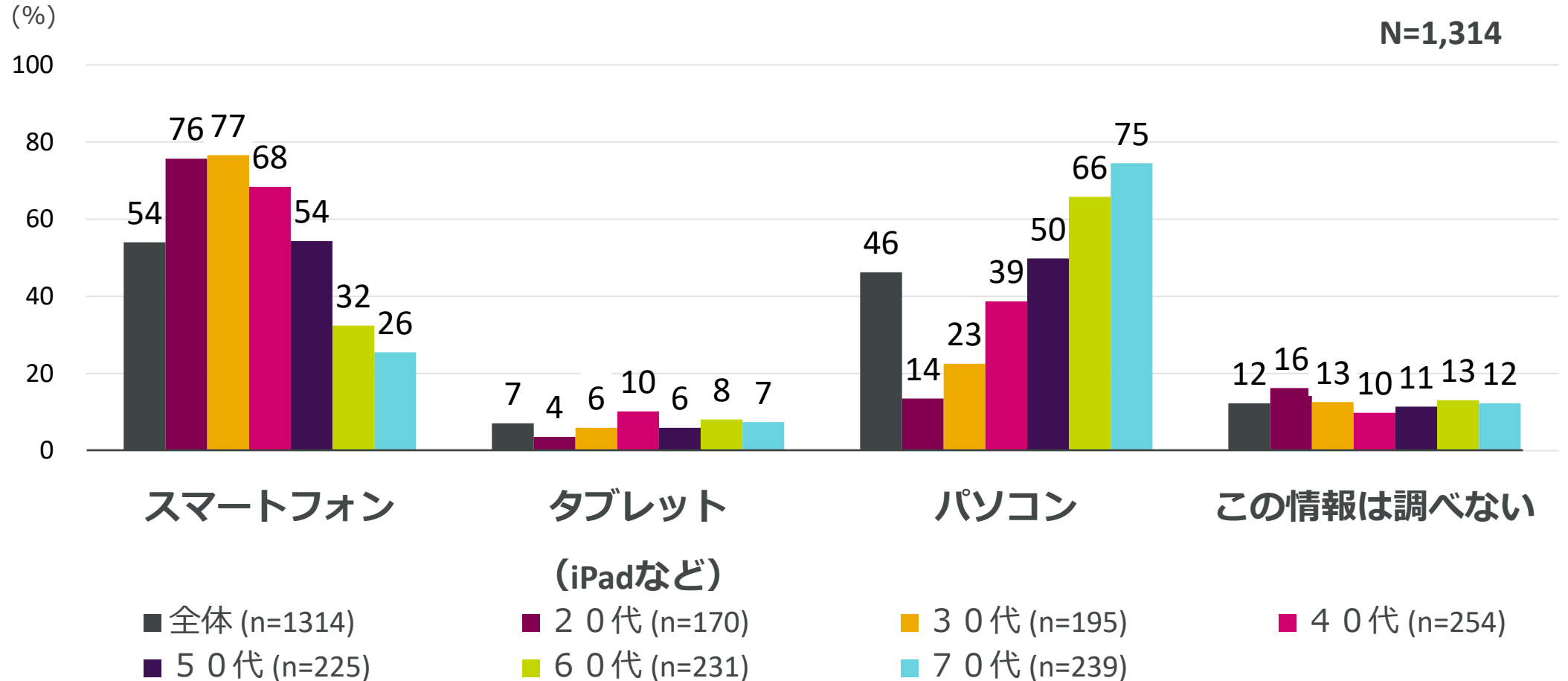
- ・ 卵巣がんは、乳がんおよび子宮頸がんと比較して、自覚症状について理解している人が少なかった
- ・ 卵巣がんでは「おなかが張る」「トイレが近い」といった症状が出ることが知られていなかった

Q. これらのがんの自覚症状として当てはまるものをお教えてください。（複数回答可）



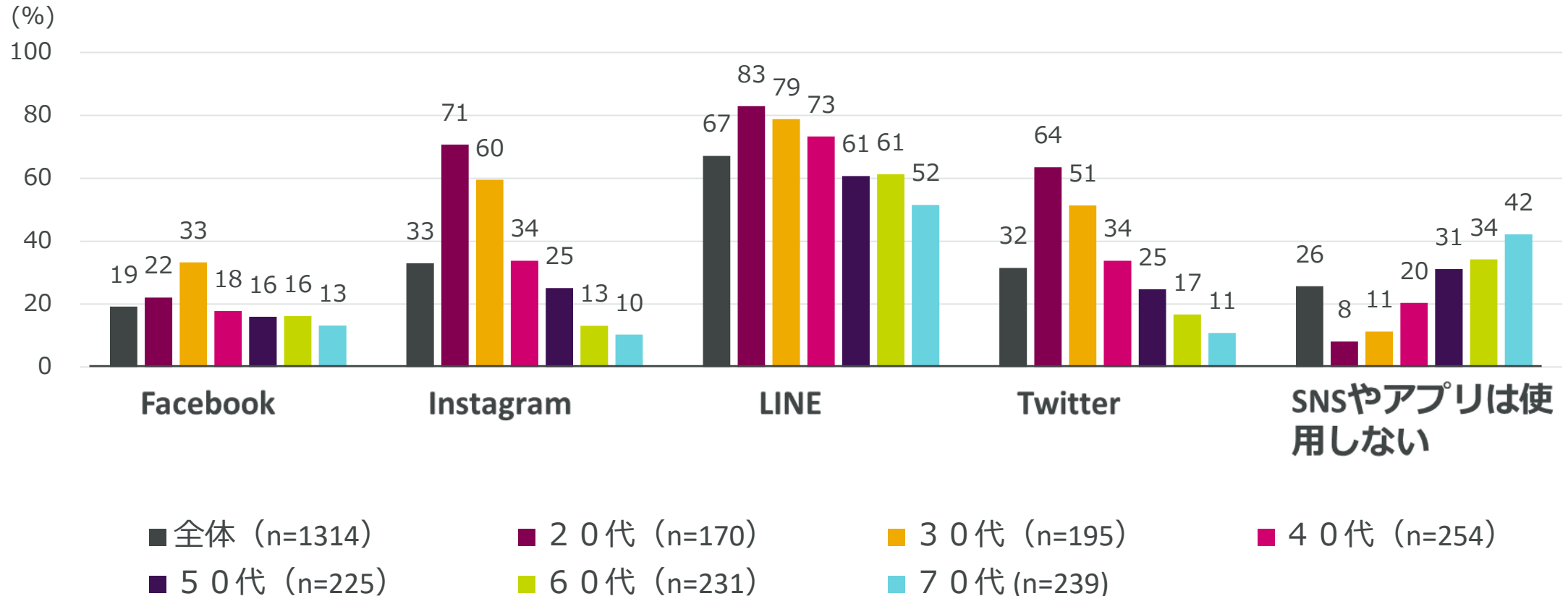
病気について情報収集するときのデバイス（年齢別）

- ・情報収集のデバイスとして、20代～40代はスマートフォンが多く、60代以降になるとパソコンを利用する人が多かった



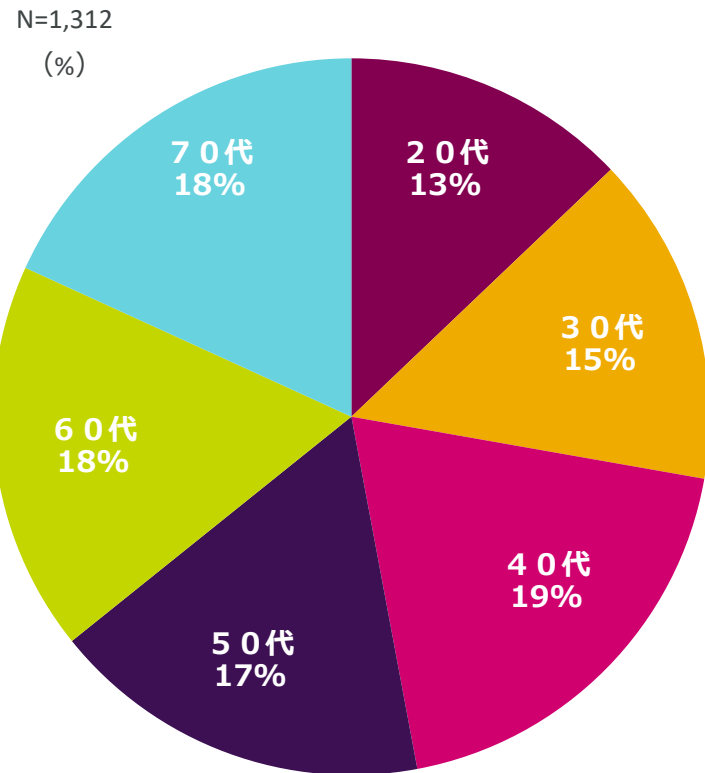
使用しているSNSツールやアプリ（年齢別）

・使用しているSNSツールとして、どの世代においてもLINEの利用が多かった。

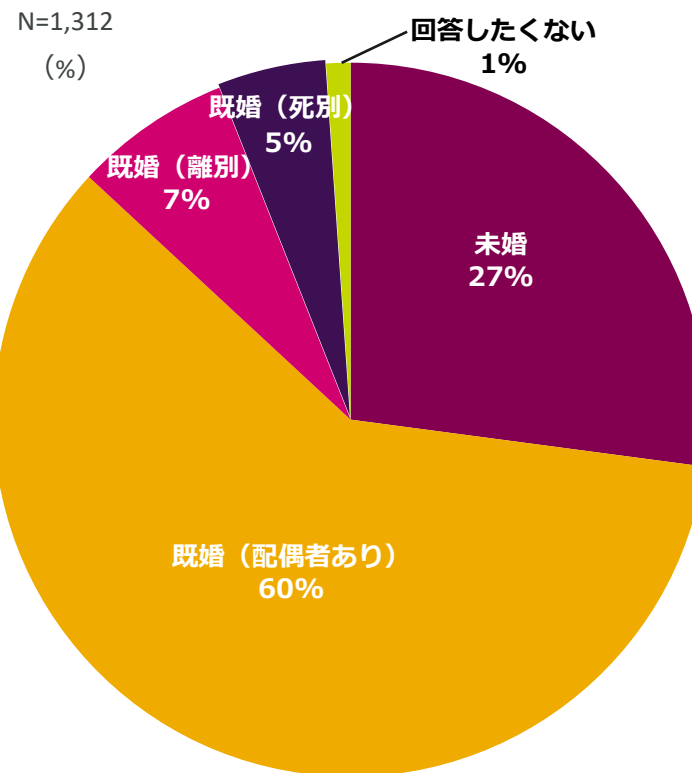


回答者プロフィール①

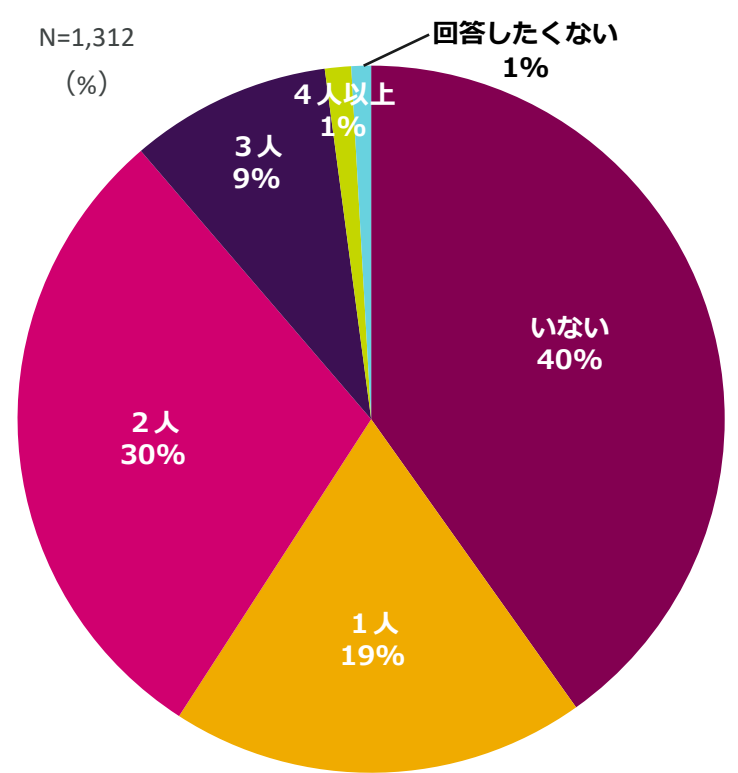
年齢（回答時）



婚姻状況

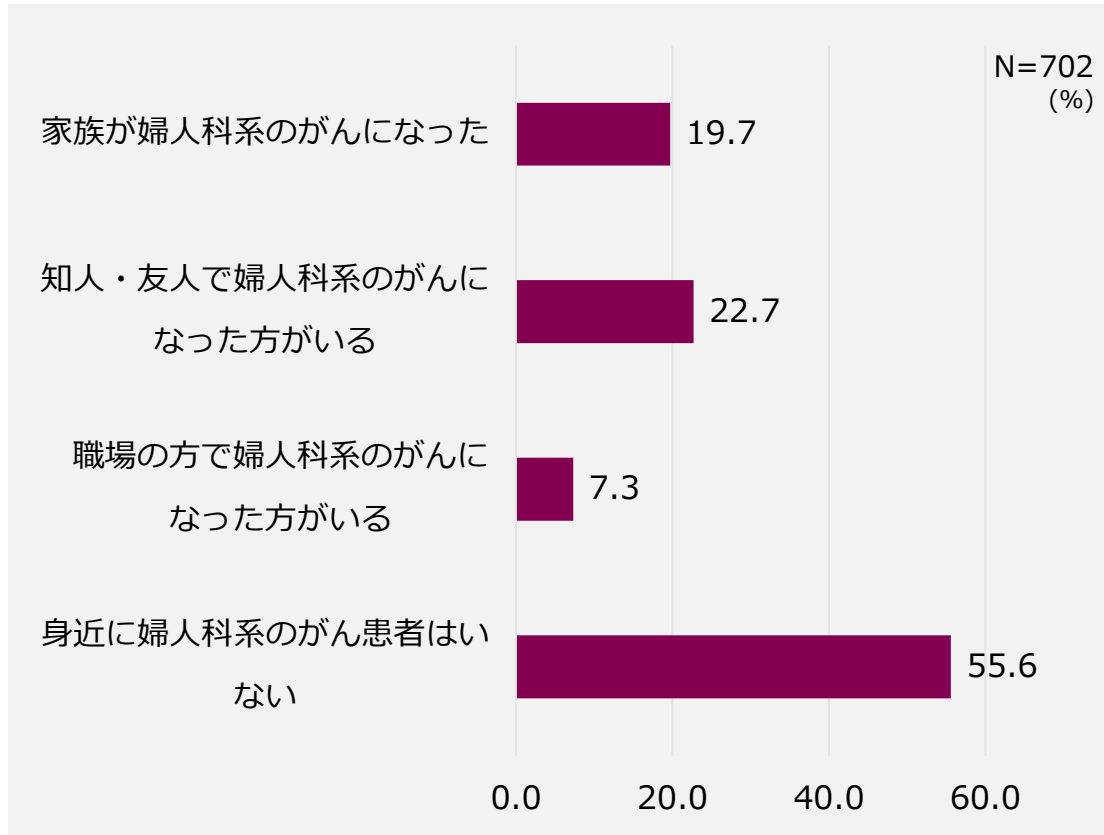


子供の数

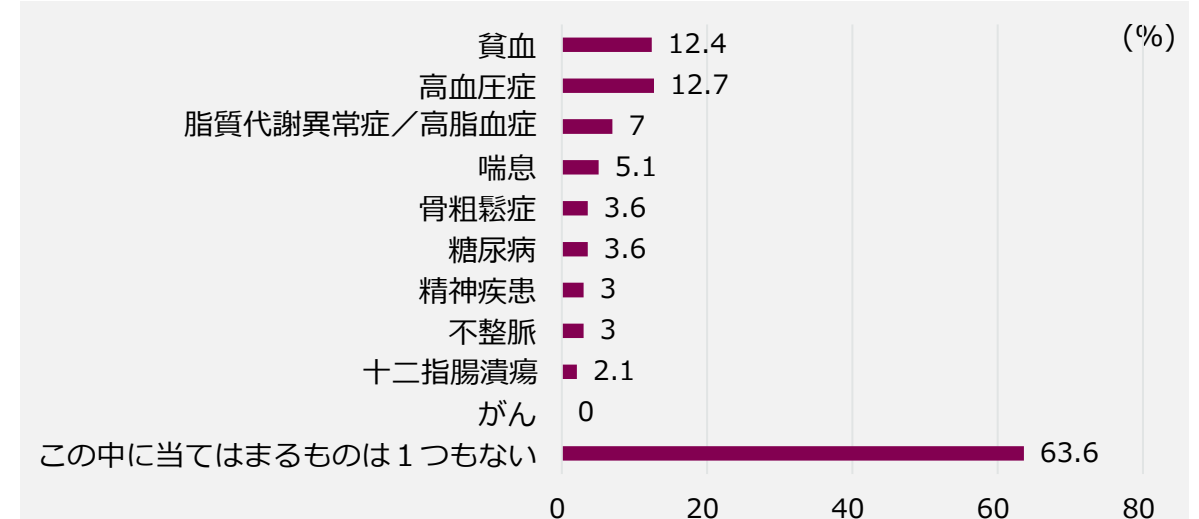


回答者プロフィール②

Q. 身近な方に婦人科系がんの患者さんはいますか（複数回答可）



Q. 次の中で、あなたがこれまでに経験された病気としてあてはまるものを教えてください。（複数回答可）



Q. 病気になったときに、どなたに相談することが多いですか。主な相談相手としてあてはまる方を教えてください。（複数回答可）

